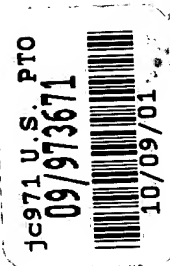


日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日
Date of Application:

2000年12月 7日

出 願 番 号
Application Number:

特願2000-372359

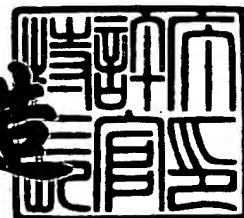
出 願 人
Applicant(s):

株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント

2001年 8月10日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3072005

【書類名】 特許願

【整理番号】 SCEI99210

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G06N 1/00

【発明者】

【住所又は居所】 東京都港区赤坂7丁目1番1号 株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント内

【氏名】 馬越 英尚

【特許出願人】

【識別番号】 395015319

【氏名又は名称】 株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント

【代理人】

【識別番号】 100107238

【弁理士】

【氏名又は名称】 米山 尚志

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 111236

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 サービス提供方法、サービス提供に関するコンピュータプログラムが記憶された記憶媒体、プログラム実行装置、コンテンツ配信システム、及びコンテンツ配信に関するコンピュータプログラムが記憶された記憶媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 サービス受益者側が、サービス提供者が提供しているサービスに付加される広告の頻度、及び／又は、量を選択し、

サービス提供者側では、上記サービス受益者により選択された広告の頻度、及び／又は、量に応じて、該サービス提供者が提供するサービスに対する課金を行う

サービス提供方法。

【請求項 2】 上記サービスに対する課金金額は、無料を含め、段階的に設定されていること

を特徴とする請求項 1 記載のサービス提供方法。

【請求項 3】 上記サービス受益者により選択された広告の頻度、及び／又は、量は、サービス受益中に変更可能であること

を特徴とする請求項 1 又は請求項 2 記載のサービス提供方法。

【請求項 4】 サービス受益者側が、サービス提供者が提供しているサービスに付加される広告の頻度、及び／又は、量を選択するステップと、

上記サービス受益者により選択された広告の頻度、及び／又は、量に応じて、サービス提供者が提供するサービスに対する料金の設定を行うステップと

を有するコンピュータプログラムが記憶された記憶媒体。

【請求項 5】 上記サービス受益者により選択された広告の頻度、及び／又

を特徴とする請求項4又は請求項5記載の記憶媒体。

【請求項7】 サービス受益者側が、サービス提供者が提供しているサービスに付加される広告の頻度、及び／又は、量を選択するステップと、

上記サービス受益者により選択された広告の頻度、及び／又は、量に応じて、サービス提供者が提供するサービスに対する料金の設定を行うステップと

を有するコンピュータプログラムを実行するプログラム実行装置。

【請求項8】 上記サービス受益者により選択された広告の頻度、及び／又は、量に応じて、サービス提供者が提供するサービスに対する料金を、無料を含め段階的に設定するステップを有するコンピュータプログラムを実行すること

を特徴とする請求項7記載のプログラム実行装置。

【請求項9】 上記サービス受益者により選択された広告の頻度、及び／又は、量を、サービスの提供途中で変更するステップを有するコンピュータプログラムを実行すること

を特徴とする請求項7又は請求項8記載のプログラム実行装置。

【請求項10】 所定のネットワークに接続され、配信されるコンテンツに対して付加される広告の頻度、及び／又は、量を選択する選択手段を備えたクライアント端末装置と、

上記クライアント端末装置の選択手段で選択された頻度、及び／又は、量の広告を付加したコンテンツを、上記所定のネットワークを介してクライアント端末装置に配信する配信手段と、上記クライアント端末装置の選択手段で選択された広告の頻度、及び／又は、量に応じて、クライアント端末装置に配信したコンテンツに対する課金を行う課金手段とを備えた配信装置と

を有するコンテンツ配信システム。

【請求項11】 上記課金手段は、クライアント端末装置の選択手段で選択

上記配信装置の配信手段は、上記クライアント端末装置の変更手段で変更された頻度、及び／又は、量の広告をコンテンツに付加してクライアント端末装置側に配信すること

を特徴とする請求項10又は請求項11記載のコンテンツ配信システム。

【請求項13】 所定のネットワークに接続されたクライアント端末装置側において、配信されるコンテンツに対して付加される広告の頻度、及び／又は、量を選択させるステップと、

上記所定のネットワークに接続された配信装置側において、上記クライアント端末装置側で選択された頻度、及び／又は、量の広告をコンテンツに付加して該クライアント端末装置側に配信するステップと、

上記配信装置側において、上記クライアント端末装置側で選択された広告の頻度、及び／又は、量に応じて、クライアント端末装置に配信したコンテンツに対する課金を行うステップと

を有するコンテンツ配信に関するコンピュータプログラムが記憶された記憶媒体。

【請求項14】 上記配信装置側において、上記クライアント端末装置側で選択された広告の頻度、及び／又は、量に応じて、コンテンツに対する料金を、無料を含め段階的に設定するステップを有すること

を特徴とする請求項13記載のコンテンツ配信に関するコンピュータプログラムが記憶された記憶媒体。

【請求項15】 上記クライアント端末装置側において、コンテンツの受信中に広告の頻度、及び／又は、量の変更を指定するステップと、

上記配信装置側において、上記クライアント端末装置側で変更された頻度、及び／又は、量の広告をコンテンツに付加してクライアント端末装置側に配信するステップと

を有することを特徴とする請求項12又は請求項14記載のコンテンツ配信に

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えば地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビジョン等のテレビジョン放送の有料視聴サービス、インターネット等の通信回線網に対する接続サービスやコンテンツの配信サービス、或いは物品の配送サービス等に適用して好適なサービス提供方法、サービス提供に関するコンピュータプログラムが記憶された記憶媒体、プログラム実行装置、コンテンツ配信システム、及びコンテンツ配信に関するコンピュータプログラムが記憶された記憶媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】

今日において、地上波を用いた地上波放送、衛星を用いた衛星放送、ケーブルを用いたケーブル放送等の各種テレビジョン放送が知られており、例えばスポーツ、映画、ニュース等の様々な番組が放送されている。

【0003】

これらの番組の放送や番組制作に要する費用は、大きく分けて、視聴者が負担する放送と、各番組のスポンサーが負担する放送とがある。例えば国営放送の場合、各視聴者から月々定額の視聴料が徴収されるようになっており、国営放送局では、この視聴者から徴収した視聴料に基づいて番組の放送や番組制作を行うようになっている。

【0004】

これに対して、民間放送の場合、番組のスポンサーを募り、番組の放送中にそのスポンサーのコマーシャルを挿入することを条件に、スポンサーからコマーシャル料の徴収を行う。民間放送局では、このスポンサーから徴収したコマーシャル料に基づいて番組の放送や番組制作を行うようになっている。この民間放送の場合、各視聴者の視聴料はスポンサーが支払っていることとなるため、各視聴者は基本的には視聴料を支払うことなく無料で各番組を視聴することができるようになっている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

に、視聴者は無料で番組を視聴することができるのであるが、番組中にスポンサーのコマーシャルが挿入されることとなり、なかば強制的にスポンサーのコマーシャルを視聴させられることとなる。番組中のコマーシャル頻度が高くなると、その都度一連の番組の流れが中断されることとなり、視聴者にとって番組が視聴しづらいものとなる。また、番組中に放送されるコマーシャルの放送量が多くなると、この番組が長時間中断されることとなるため、やはり視聴者にとって番組が視聴しづらいものとなる。

【0006】

このようなことから視聴者の中には、ある程度の視聴料を支払ってもよいからコマーシャルを少なくして欲しいと希望する視聴者が存在する。しかし、これとは逆に、コマーシャルがあってもよいから視聴料が無料或いは低料金となることを希望する視聴者も存在することも事実である。

【0007】

このような提供サービスと広告に関する問題は、例えばインターネット等の通信回線網を介して視聴するコンテンツとこのコンテンツ内に挿入（表示）されるバナー広告の場合も同様である。

【0008】

本発明は、上述の課題に鑑みてなされたものであり、サービス受益者が希望する料金及び広告を付加した形態でサービスの提供を行うことができるようなサービス提供方法、サービス提供に関するコンピュータプログラムが記憶された記憶媒体、プログラム実行装置、コンテンツ配信システム、及びコンテンツ配信に関するコンピュータプログラムが記憶された記憶媒体の提供を目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】

本発明は、上述の課題を解決するために、提供サービスに付加する広告の頻度（及び、或いは量）に応じてサービス受益者の課金料を決定する。これにより、

【発明の実施の形態】

本発明は、例えばニュース番組、スポーツ番組、バラエティ等の各種番組を放送するコンテンツ配信システムに適用することができる。

【0011】

《システム構成》

図1は、この本発明の実施の形態となるコンテンツ配信システムのブロック図である。この図1において、この実施の形態のコンテンツ配信システムは、ネットワーク1を介して相互に接続されたクライアント端末装置2、及びこのクライアント端末装置3に対して各種番組のコンテンツを送信する放送局側のサーバシステム3とを有している。

【0012】

ネットワーク1は、電気通信技術を利用した通信網全般を意味しており、例えばTCP (Transmission Control Protocol) / IP (Internet Protocol) をベースとしたインターネット、WAN (Wide Area Network) , LAN (Local Area Network) 等の通信回線網の他、地上波のテレビジョン放送網、衛星通信網、ケーブル通信網等を含むものである。

【0013】

また、例えば放送局側のサーバシステム3からインターネットを介してコンテンツの配信が行われるのであれば、クライアント端末装置2は、WEBブラウザ及びコンテンツ処理機能を有するパーソナルコンピュータ装置となり、放送局側のサーバシステム3から地上波でコンテンツの配信が行われるのであれば、クライアント端末装置2はテレビジョン受像機となる。

【0014】

なお、以下、理解を容易化するために、クライアント端末装置2はパーソナルコンピュータ装置であり、このクライアント端末装置2が、放送局側のサーバ装置3からネットワーク1であるインターネットを介して配信される各種コンテンツの配信サービスを受けるものとして説明を進める。

【0015】

《サーバシステムの構成》

この場合において、サーバシステム 3 は、ルータ 3 1、ゲートウェイ 3 2、スイッチャ 3 3、広告送出量調整部 3 4、広告送出頻度調整部 3 5、制御部 3 6、広告サーバ装置 3 7 及びコンテンツサーバ装置 3 8 を有している。

【 0 0 1 6 】

ルータ 3 1 は、このサーバシステム 3 及びクライアント端末装置 2 をネットワーク 1 を介して接続する機能を有しており、例えば I S D N (Integrated Services Digital Network) 回線に対応する I S D N ルータ、ソフトウェアによりルータ機能を実現するソフトウェアルータ等を用いることができる。なお、このルータ 3 1 は、以下に説明するゲートウェイ 3 2 に代替しても良い。

【 0 0 1 7 】

ゲートウェイ 3 2 は、基本的には、ルータ 3 1 と同様に、このサーバシステム 3 及びクライアント端末装置 2 をネットワーク 1 を介して接続する機能を有しているのであるが、ルータ 3 1 は O S I (Open Systems Interconnection) 基本参照モデルのネットワーク層 (第 3 層) において相互接続するのに対し、ゲートウェイ 3 2 は O S I 基本参照モデルの全ての層のプロトコルに対応することができるようになっている。このため、このゲートウェイ 3 2 を用いることにより、汎用性の高いネットワーク接続処理を実現することが可能となる。

【 0 0 1 8 】

広告サーバ装置 3 7 には、コマーシャル広告、文字広告、バナー広告等の広告情報が記憶されている。コンテンツサーバ装置 3 8 には、例えばニュース番組、スポーツ番組、バラエティ番組等の番組情報 (コンテンツ) が記憶されている。これら広告情報及びコンテンツは、例えば M P E G 2 (M P E G : Moving Picture Experts Group) 等の圧縮符号化技術により、圧縮符号化されて各サーバ装置 3 7、3 8 に記憶されている。

【 0 0 1 9 】

広告送出量調整部 3 4 は、制御部 3 6 からの指示に従って、広告サーバ装置 3 7 から出力される広告情報に対して所定の間引き処理を施すことで 1 回当たりの広告情報の送出量を調整する。なお、この広告情報の送出量は、広告情報の送出時間を示すものである。

【 0 0 2 0 】

広告送出頻度調整部 3 5 は、制御部 3 6 の指示に従って、広告サーバ装置 3 7 から出力される広告情報の送出頻度を調整する。なお、この広告情報の頻度は、単位時間当たりに送出される広告情報の回数を示すものである。

【 0 0 2 1 】

スイッチャ 3 3 は、広告送出量調整部 3 4 及び広告送出頻度調整部 3 5 で調整された頻度及び量の広告情報を、コンテンツサーバ装置 3 8 から出力されるコンテンツに挿入若しくは合成し、これをゲートウェイ 3 2 及びネットワーク 1 を介してクライアント端末装置 2 側に配信するようになっている。

【 0 0 2 2 】

なお、ユーザが広告の配信を希望していない場合（広告無しのコンテンツの配信サービスに対する視聴料を支払っている場合）、このスイッチャ 3 3 は、コンテンツサーバ装置 3 8 からのコンテンツに対して広告情報の挿入若しくは合成を行わないようになっている。

【 0 0 2 3 】

制御部 3 6 は、ユーザ情報データベース 3 9 を有しており、このユーザ情報データベース 3 9 内に、各ユーザ毎に指定された広告の頻度と量を記憶するようになっている。そして、コンテンツの配信の際に、そのユーザにより指定された広告の頻度と量を示す各ユーザ情報を読み出し、この各情報に対応する頻度及び量の広告情報が挿入或いは合成されたコンテンツを形成し、これをクライアント端末装置 2 側に配信するようになっている。

【 0 0 2 4 】

《クライアント端末装置の構成》

クライアント端末装置 2 は、この場合、いわゆるパーソナルコンピュータ装置の構成を有しており、サーバシステム 3 から配信されたコンテンツ（及び広告情報）を表示する例えば陰極線管（C R T）や液晶（L C D）等の表示装置 2 1 と、所望のコンテンツの選択や広告情報の送出頻度及び送出量の指定等を行う例えばキーボードやマウス装置等の入力部 2 2 と、このクライアント端末装置 2 とサーバシステム 3 との間の通信制御を行う通信制御部 2 3 とを有している。

【0025】

《コンテンツ配信システムの動作》

この実施の形態のコンテンツ配信システムは、視聴者が所望する番組のコンテンツを受信する際に、予め広告の頻度及び量を選択し、放送局側では、この視聴者により選択された頻度及び量の広告を挿入したコンテンツを形成して配信する。そして、このコンテンツに付加した広告の頻度及び量に応じて視聴料の課金を行うようになっている。

【0026】

なお、以下、視聴者が番組を視聴する際に、その都度、番組に付加される広告の頻度及び量を選択することとして説明を進めるが、これは、視聴者が放送局側に対して、予め希望する広告の頻度及び量を指定しておき、放送局側では番組のコンテンツの配信の際に、広告の頻度及び量の指定を求めることなく、予め視聴者により指定された頻度及び量の広告を付加して番組のコンテンツの配信を行うようにしてもよい。

【0027】

〈広告の頻度及び量の登録〉

図2のフローチャートに、視聴者が希望する広告の頻度及び量を放送局側に登録するまでの流れを示す。この図2のフローチャートは、ステップS1～ステップS7が視聴者のクライアント端末装置2側の動作を、ステップS11～ステップS15が放送局側のサーバシステム3側の動作をそれぞれ示している。

【0028】

なお、このコンテンツ配信システムでは、放送局側から所望のコンテンツの配

【 0 0 3 0 】

ステップ S 1 では、視聴者が、クライアント端末装置 2 の W E B ブラウザを起動し、入力部 2 2 を操作して放送局側のサーバシステム 3 に対して接続を図る。これにより、クライアント端末装置 2 とサーバシステム 3 とがネットワーク 1 を介して接続され、このフローチャートの処理ルーチンがステップ S 2 に進む。

【 0 0 3 1 】

ステップ S 2 では、サーバシステム 3 側の制御部 3 6 が、このサーバシステム 3 に対して接続を確立したクライアント端末装置 2 に対してユーザ名とパスワードの入力を求める。これにより、このフローチャートの処理ルーチンがステップ S 3 に進む。

【 0 0 3 2 】

ステップ S 3 では、クライアント端末装置 2 側の視聴者が、入力部 2 2 を操作して放送局側から自分に割り当てられているユーザ名とパスワードの入力を行い、このユーザ名とパスワードをサーバシステム 3 側に送信する。これにより、このフローチャートの処理ルーチンがステップ S 4 に進む。

【 0 0 3 3 】

ステップ S 4 では、サーバシステム 3 側の制御部 3 6 が、この視聴者により入力されたユーザ名及びパスワードと、ユーザ情報データベース 3 9 に記憶されているユーザ名及びパスワードとを照合してステップ S 5 に進み、このステップ S 5 において、現在、コンテンツの配信を求めている視聴者は、当該システムの正規のメンバーであるか否かを判別する認証処理を行う。

【 0 0 3 4 】

そして、現在、コンテンツの配信を求めている視聴者が当該システムの正規の

【 0 0 3 5 】

次に、視聴者は、ステップ S 6 及びステップ S 7 において、クライアント端末装置 2 の入力部 2 2 を操作して、配信を希望するコンテンツに付加される広告の頻度及び量を指定する。

【 0 0 3 6 】

図 3 は、このユーザにより指定される広告の頻度及び量に対するコンテンツの視聴料を示す図である。この図 3 に示す例においては、広告の頻度は 1 コンテンツあたり 0 回～6 回の中から所望の量を選択するようになっており、また、広告の量も、1 回あたり 1 5 秒、3 0 秒、6 0 秒の中から所望の量を選択するようになっている。

【 0 0 3 7 】

例えば、広告の頻度を 0 回（＝無広告。この場合、量は 0 秒である。）に指定した場合、そのコンテンツの視聴料はユーザが全額負担すべきであるため、視聴料は最高金額の例えば 3 0 0 0 円となる。また、広告の頻度を 1 回に指定すると共に、この 1 回の広告時間を 1 5 秒とした場合、この 1 5 秒分の広告時間に相当する金額である 3 0 0 円を上記最高金額から引き算することで、その視聴料は 2 7 0 0 円となる。同様に、広告の頻度を 2 回に指定すると共に、各広告時間を 6 0 秒とした場合、この 6 0 秒×2 回分の広告時間に相当する金額である 1 2 0 0 円を上記最高金額から引き算することで、その視聴料は 1 8 0 0 円となる。さらに、広告の頻度を 6 回に指定すると共に、各広告時間を 6 0 秒とした場合、この 6 0 秒×6 回分の広告時間に相当する金額である 3 0 0 0 円を上記最高金額から引き算することで、その視聴料は 0 円（無料）となる。

【 0 0 3 8 】

この実施の形態のコンテンツ配信システムでは、このようにユーザにより選択される広告の頻度及び量に対応してコンテンツの視聴料が段階的に定められており、ユーザは、視聴するコンテンツの広告の頻度及び量と視聴料とに基づいて、所望の広告の頻度及び量を選択するようになっている。

【 0 0 3 9 】

次に、このようにユーザにより所望する広告の頻度及び量が選択されると、サ

サーバシステム側では、ステップ S 8 及びステップ S 1 0 において、制御部 3 6 が、ユーザにより選択された広告の頻度及び量をユーザ情報データベース 3 9 に記憶制御する。

【 0 0 4 0 】

図 4 は、このユーザ情報データベース 3 9 内に各ユーザ毎に記憶された広告の頻度及び量の一例を模式的に示した図である。この図 4 からわかるように、ユーザ情報データベース 3 9 内には、各ユーザのユーザ名及びパスワードと共に、例えば広告頻度 0 回、量 0 秒、或いは広告頻度 1 回、量 6 0 秒等のように、そのユーザにより選択された広告の頻度及び量が記憶されている。このユーザ情報データベース 3 9 に記憶制御された各ユーザ毎の広告の頻度及び量は、制御部 3 6 により広告の配信時に読み出される。そして、制御部 3 6 が、このユーザにより選択された頻度及び量の広告情報をユーザのクライアント端末装置 2 側に送信するようになっている。

【 0 0 4 1 】

次に、このような広告の頻度及び量の指定がなされると、クライアント端末装置 2 側の通信制御部 2 3 が、例えば「コンテンツを配信しますか？」等のコンテンツの配信を開始するか否かを問うメッセージを表示装置 2 1 に表示制御する。そして、ステップ S 1 1 において、ユーザからコンテンツの配信が指定されたか否かを判別し、ユーザからコンテンツの配信が指定された場合は図 5 のコンテンツ及び広告情報の配信の流れを示すフローチャートに動作が移行し、ユーザからコンテンツの配信が指定されない場合はステップ S 1 2 に進む。

【 0 0 4 2 】

ステップ S 1 2 では、クライアント端末装置 2 側の通信制御部 2 3 が、例えば「接続を切断しますか？」等の、クライアント端末装置 2 側とサーバシステム 3 側との間の通信回線の接続状態をこのまま維持するか否かを問うメッセージを表示装置 2 1 に表示制御する。そして、接続を切断しない場合には、広告の頻度及び量の指定の修正があるものとみなし、上述のステップ S 6 に戻り、このステップ S 6 ～ステップ S 1 1 の各ルーチンを繰り返し実行する。

【 0 0 4 3 】

一方、ユーザから接続の切断が指定された場合には、ステップ S 1 3 において通信制御部 2 3 が、クライアント端末装置 2 とサーバシステム 3 との間の通信回線を切断する。これにより、この図 2 に示すフローチャートの全ルーチンが終了する。

【 0 0 4 4 】

＜コンテンツ及び広告の配信＞

次に、図 2 に示すフローチャートのステップ S 1 1 において、ユーザからコンテンツの配信が指定された場合、当該システムの動作は図 5 に示すコンテンツ及び広告の配信の流れを示すフローチャートの動作に移行する。

【 0 0 4 5 】

この図 5 のフローチャートにおいて、まず、ユーザが所望のコンテンツを指定すると、クライアント端末装置 2 が、ステップ S 2 1 でこのユーザから指定されたコンテンツを示す情報をサーバシステム 3 側に送信する。

【 0 0 4 6 】

サーバシステム 3 側では、制御部 3 6 が、ステップ S 2 2 においてこのユーザから指定されたコンテンツをコンテンツサーバ装置 3 8 からロードする。そして、ステップ S 2 3 において、このコンテンツをスイッチャ 3 3 及びゲートウェイ 3 2 を介してクライアント端末装置 2 側に配信制御する。これにより、クライアント端末装置 2 側では、ステップ S 2 4 に示すように、所望のコンテンツを視聴することができる。

【 0 0 4 7 】

次に、サーバシステム 3 側では、このコンテンツの配信と共にタイマによる計時を行うことで広告の配信時刻を監視している。ステップ S 2 5 では、制御部 3 6 が、上記タイマによる計時時刻に基づいて、現在時刻がこの広告の配信時刻となったか否かを判別しており、広告の配信時刻となっていない場合はステップ S 2 3 に戻りコンテンツの配信を継続制御し、広告の配信時刻となった場合にはステップ S 2 6 に進む。

【 0 0 4 8 】

報データベース 3 9 から、そのコンテンツの配信を行っているユーザのユーザ情報をロードすることで、そのユーザにより指定された広告の頻度及び量を検出する。

【 0 0 4 9 】

ステップ S 2 7 では、制御部 3 6 が、このロードしたユーザ情報に基づいて、ユーザが広告情報の非配信（広告無し）を希望しているか否かを判別し、広告無しを希望している場合は、ステップ S 2 3 に戻りそのままコンテンツの配信を継続制御する。これにより、ユーザは、希望どおり、広告に中断されることなくコンテンツを連続的に視聴することができる。

【 0 0 5 0 】

次に、ユーザが広告情報の配信を許容している場合は、制御部 3 6 が、ステップ S 2 8 において広告サーバ装置 3 7 から所定の広告情報を読み出し、これを広告送出頻度調整部 3 5 及び広告送出量調整部 3 4 にそれぞれロードする。

【 0 0 5 1 】

ステップ S 2 9 では、制御部 3 6 が、予めユーザにより指定された頻度及び量の広告情報を形成するように広告送出頻度調整部 3 5 及び広告送出量調整部 3 4 を制御する。そして、コンテンツサーバ装置 3 8 からのコンテンツの送信を中断し、この広告送出頻度調整部 3 5 及び広告送出量調整部 3 4 で調整された広告情報を配信するようにスイッチャ 3 3 を切り替え制御する。この広告情報は、ゲートウェイ 3 2 を介してクライアント端末装置 2 側に送信される。これにより、ユーザは、自分が指定した頻度及び量の広告情報を視聴することとなる（ステップ S 3 0）。

【 0 0 5 2 】

なお、制御部 3 6 は、この広告情報の配信後に、中断していたコンテンツの配信を再開するようにスイッチャ 3 3 を切り替え制御する。これにより、ユーザは、広告を視聴した後に、再度コンテンツの続きを視聴することができる。

【 0 0 5 3 】

次に、制御部 3 6 は、ステップ S 3 1 において、コンテンツの配信が終了したか否かを判別し、コンテンツの配信が終了していない場合はステップ S 2 3 に戻

りコンテンツの配信を継続制御し、コンテンツの配信が終了した場合には、ステップ S 3 2 に進み、そのユーザに対してコンテンツの視聴料の課金処理を行う。

【 0 0 5 4 】

図 3 に示す例を用いて上述したように、コンテンツの視聴料は、ユーザが指定した広告の頻度及び量に基づいて段階的に定められている。このため、制御部 3 6 は、このステップ S 3 2 において、ユーザが指定した広告の頻度及び量に対応する課金処理を行うこととなる。

【 0 0 5 5 】

次に、ユーザは、コンテンツの視聴が終了すると、ステップ S 3 3 においてクライアント端末装置 2 とサーバシステム 3 との間で接続されている通信回線を切断する。これにより、この図 5 に示すフローチャートの全ルーチンが終了する。

【 0 0 5 6 】

以上の説明から明らかなように、この実施の形態のコンテンツ配信システムは、コンテンツに付加する広告の頻度及び量（頻度或いは量でもよい。）をユーザにより予め選択させ、このユーザにより選択された広告の頻度及び量に対応する視聴料の課金を行う。これにより、ユーザが希望する視聴料及び広告を付加した形態でコンテンツの配信を行うことができる。

【 0 0 5 7 】

なお、上述の実施の形態の説明では、ユーザにより予め選択された頻度及び量の広告情報を挿入することとしたが、この広告の頻度及び量は、コンテンツの配信途中で変更可能としてもよい。この場合、ユーザは、クライアント端末装置 2 の入力部 2 2 を操作することで、広告の頻度及び量の変更を指定し、サーバシステム 3 側では、この変更された頻度及び量の広告情報を配信し、この変更された広告情報の頻度及び量に対応する視聴料の課金を行うこととなる。

【 0 0 5 8 】

また、上述の実施の形態は、通信回線を介してコンテンツを配信するコンテンツ配信システムに本発明を適用した例であったが、この他、本発明は、地上波や衛星波を用いた有料放送や、インターネット等の接続サービスに適用してもよい。このインターネット等の接続サービスに適用した場合は、表示画面上に表示す

るバナー広告等の頻度や量をユーザに選択させ、このユーザにより選択された広告の頻度及び量に対応する接続料の課金を行うこととなる。

【 0 0 5 9 】

また、本発明は、物品の配送システムに適用してもよい。この物品の配送システムの場合、物品を包装紙で包んで配送を行うこととなるため、その包装紙に付される広告の位置や量に応じて配送料の課金を行うこととなる。

【 0 0 6 0 】

最後に、上述の実施の形態は本発明の一例である。このため、本発明は上述の実施の形態に限定されることはなく、この実施の形態以外であっても、本発明に係る技術的思想を逸脱しない範囲であれば、設計等に応じて種々の変更が可能であることは勿論であることを付け加えておく。

【 0 0 6 1 】

【発明の効果】

本発明は、サービス受益者の希望と広告の頻度（及び、或いは量）に応じた課金を行うことができる。このため、サービス受益者は、自分の希望に添った広告の頻度等でサービスを受けることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明を適用した実施の形態となるコンテンツ配信システムのブロック図である。

【図 2】

上記実施の形態のコンテンツ配信システムにおける広告の頻度及び量の登録動作を説明するためのフローチャートである。

【図 3】

広告の頻度及び量に対応する課金料を説明するための図である。

【図 4】

上記実施の形態のコンテンツ配信システムを構成するサーバシステムのユーザ情報データベース内に記憶されているユーザ情報を説明するための図である。

【図 5】

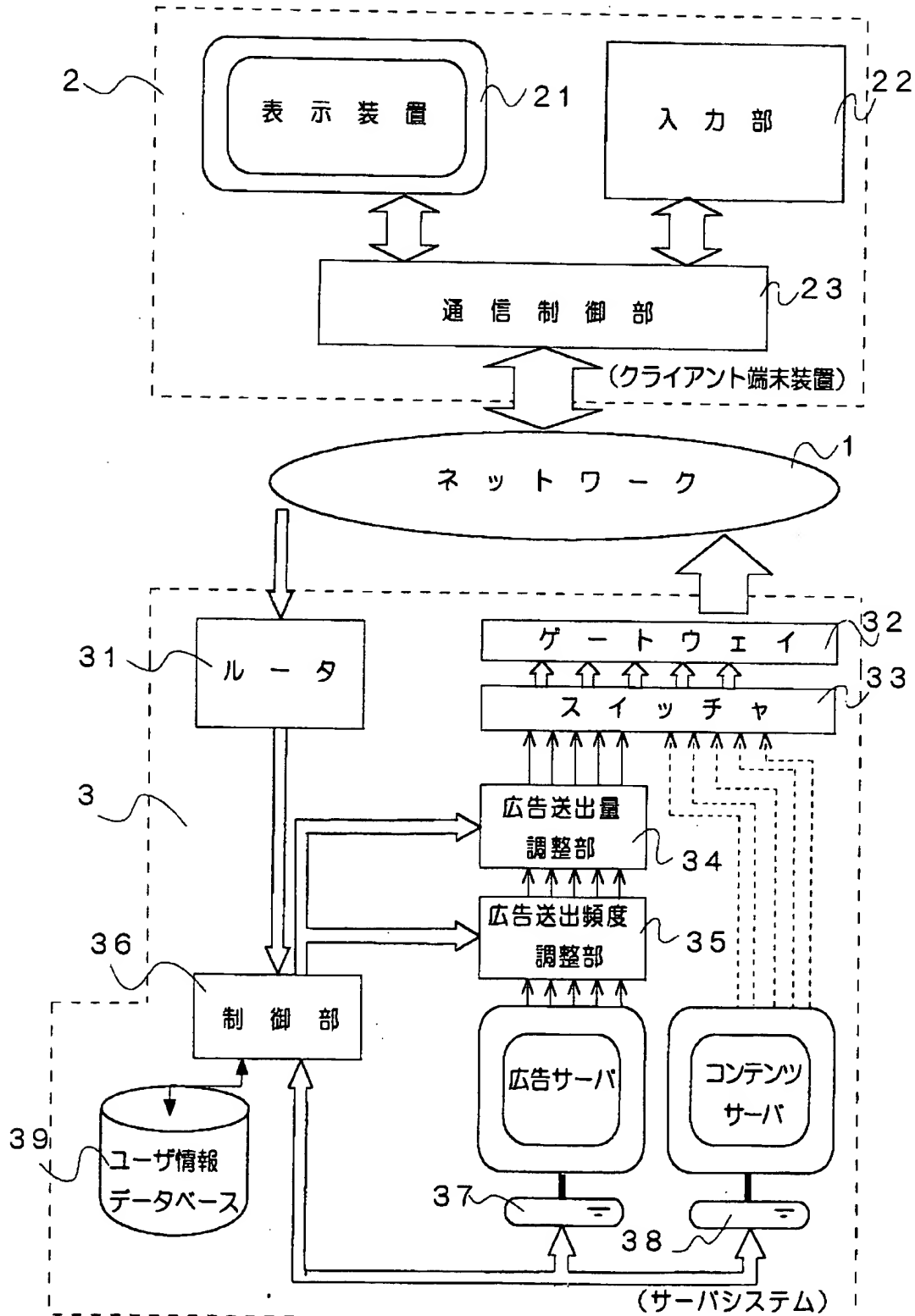
上記実施の形態のコンテンツ配信システムにおけるコンテンツ及び広告情報の配信動作を説明するためのフローチャートである。

【符号の説明】

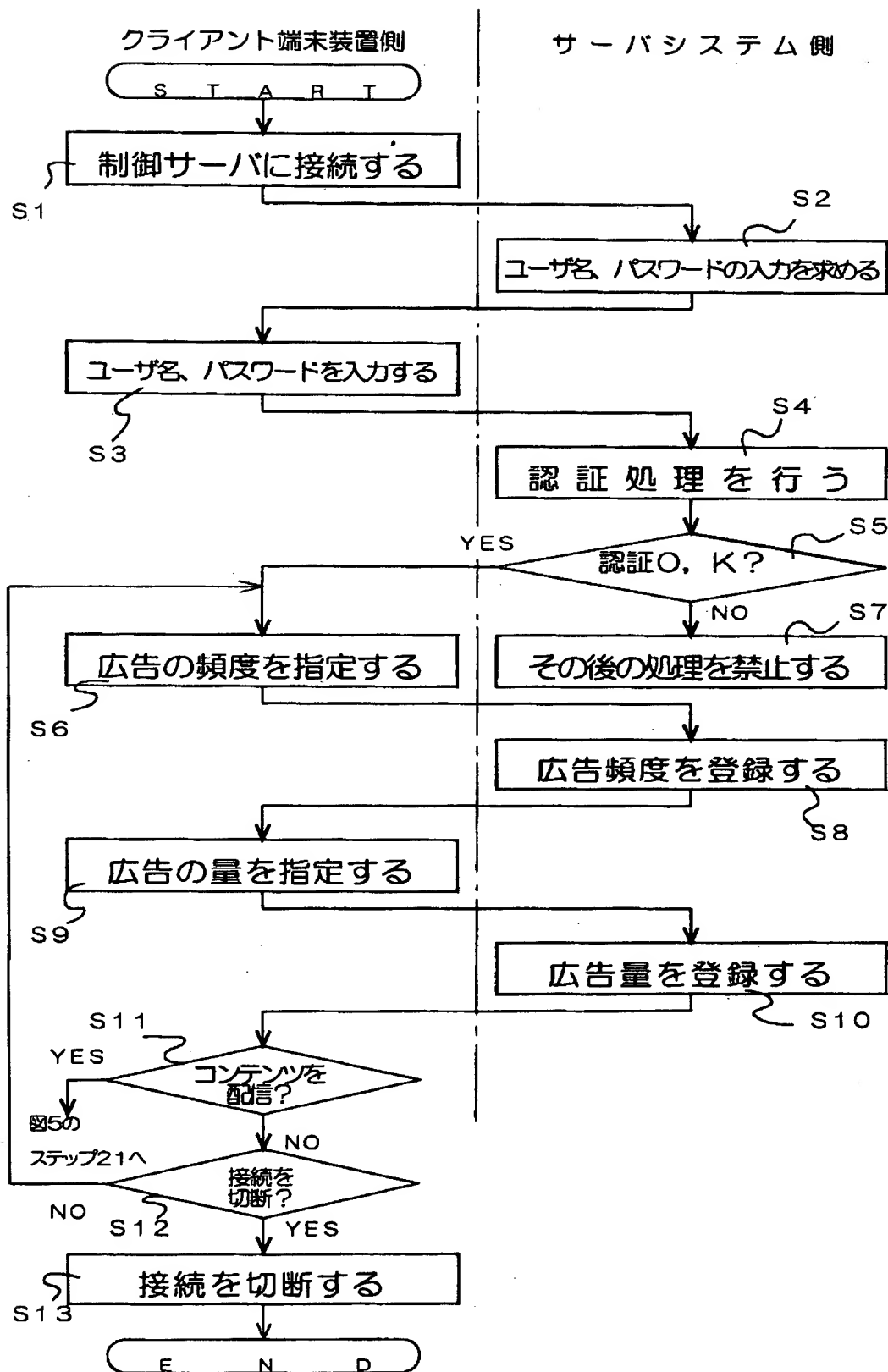
1…ネットワーク, 2…クライアント端末装置, 3…サーバシステム, 21…表示装置, 22…入力部, 23…通信制御部, 31…ルータ, 32…ゲートウェイ, 33…スイッチャ, 34…広告送出量調整部, 35…広告送出頻度調整部, 36…制御部, 37…広告サーバ装置, 38…コンテンツサーバ装置, 39…ユーザ情報データベース

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】



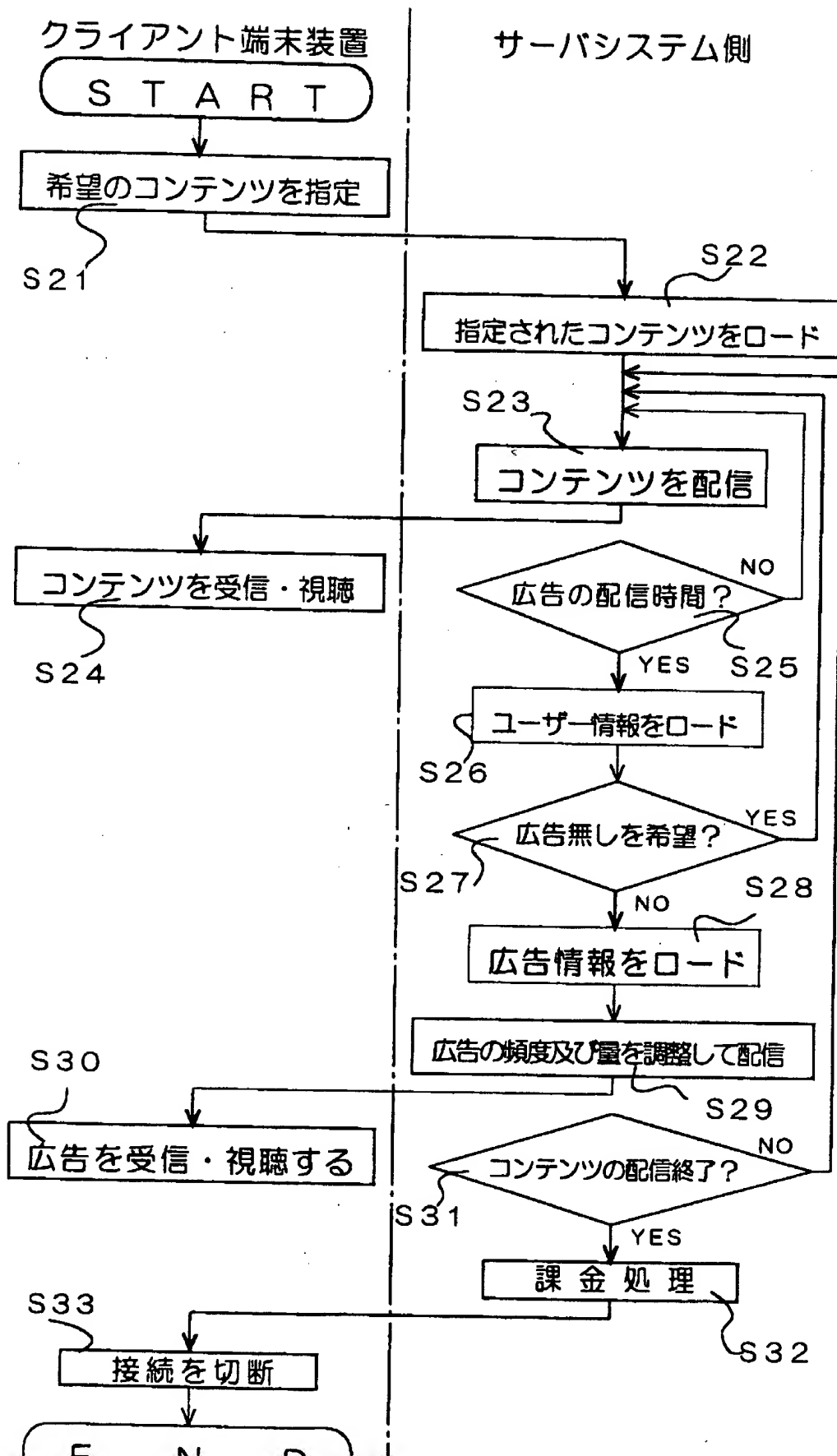
【図3】

頻度（回数）	量（秒）	料金（円）
0	0	3000
1	15	2700
1	30	2500
1	60	2300
2	15	2200
2	30	2000
2	60	1800
・	・	・
・	・	・
・	・	・
6	15	300
6	30	100
6	60	無料

【図4】

ユーザ名	パスワード	頻度 (回数)	量 (秒)
.....	xxxxxx	0	0
.....	xxxxxx	0	0
.....	xxxxxx	1	60
.....	xxxxxx	6	60
.....	xxxxxx	2	15
.....	xxxxxx	4	30

【図5】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 放送番組に付加される広告の頻度及び量を視聴者に選択させ、この視聴者により選択された広告の頻度及び量に応じて可変した視聴料を視聴者に対して課金する。

【解決手段】 広告サーバ装置 3 7 から出力される広告情報が、予め視聴者を選択された頻度及び量となるように、制御部 3 6 が、広告送出頻度調整部 3 5 及び広告送出量調整部 3 4 を制御する。スイッチャ 3 3 は、コンテンツサーバ装置 3 8 から出力される番組放送に対してこの頻度及び量が調整された広告を付加し、これをネットワーク 1 を介してクライアント端末装置 2 側に配信する。これにより、視聴者は、希望する頻度及び量の広告が付加された番組を視聴することができる。また、放送局側では、この広告の頻度及び量に応じて視聴料を可変して視聴者に課金することができる。

【選択図】 図 1

特 2 0 0 0 - 3 7 2 3 5 9

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 0 - 3 7 2 3 5 9
受付番号	5 0 0 0 1 5 7 7 4 6 3
書類名	特許願
担当官	第三担当上席 0 0 9 2
作成日	平成 1 2 年 1 2 月 8 日

< 認定情報・付加情報 >

【提出日】 平成12年12月 7日

次頁無

特2000-372359

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [395015319]

1. 変更年月日	1997年 3月31日
[変更理由]	住所変更
住 所	東京都港区赤坂7-1-1
氏 名	株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント